

# Botswana

[ボツワナ]

文・写真＝堀内 孝 (写真家)

## 塩湖に浮かぶ バオバブの森



立っている。

360度、見渡す限り塩に覆われた白い大地が広がっている。ボツワナ北部にあるマカディカディパンは、世界最大級の塩の湖といわれる。中でも興味深いのは、塩湖に浮かぶクブ島だ。この島には特異な形をしたバオバブが数多く自生する。

北部の町フランシスタウンから車で5時間、マカディカディパンの入口の村、ンマツモに着いた。この村には、クブ島を保護・管理し、観光客のガイドやツアーを手配するNGO「ガイングオー・コミニティ・トラスト」がある。早速ツアーを申し込み、NGOのマネージャーで、ガイド兼ドライバーのバンブ氏(35)とともに、クブ島へ向かった。

塩湖を車で1時間ほど走ると、こんもりとした陸地が見えてきた。西日を受けた巨大なバオバブがどっしりと

「2キロ四方の小さな島に75本ものバオバブが生えています。素晴らしい風景でしょう」とバンブ氏が説明する。2003年から本格的に活動を始めたこのNGO。その目的は、現金収入のない地元住民の仕事をつくることだ。入場料などの観光収入は公平に分配し、彼らの生活向上のために使われる。

それともう一つは、島の環境保護。以前は、キャンプ用の薪となる樹木の伐採が絶えなかったという。「島独自の植生を守るためにも、保護の必要性を強く感じます」と話す。

スタッフは9人。これまでにキャンプ地を13カ所設け、トイレを6つ整備した。キャンプ用の薪も島外から調達し、販売するようになった。



D



E

D.クブ島には2カ所のチェックポイントがあり、厳重に管理されている  
E.人口約2,000人のンマツモ村。伝統的な土壁と草ぶきの家々が並ぶ



夕方、自転車に乗り、島の周りをゆっくりと巡回するNGOスタッフ

A.乾期の塩湖はカラカラに干上がるが、雨期になると一面に水がたまり、フラミンゴなどの渡り鳥がやってくる  
B.ごつごつとした巨大な岩に覆われたクブ島。成長したバオバブの木は68本、幼木は7本が確認されている  
C.バオバブについて説明するバンブ氏。彼が見つめる小さなバオバブは樹齢約30年という



C

B

A



J.ひんやりとした空気の中、クブ島に朝日が昇る。やがてバオバブは赤く染まり、一日で最も美しい時間となる

夕日に浮かぶバオバブを見てから、テントへ戻った。そして食事を済ませ、コーヒーを飲みながら空を見上げる。漆黒の間には、天の川まで見渡せる満天の星空が広がっているではないか。何となくぜいたくな夜だろう。

翌朝は日の出前からバオバブの森に入った。どのバオバブも実にユニークな姿をしている。強風を受け、変形したのだという。

「03年は200人でしたが、08年には500人を越える観光客がやって来ました。塩湖のドライブや乗馬、星の観察なども計画中です」

観光客のさらなる増加を目指し、さまざまなツアーを企画するバンブ氏。将来は、長老による昔語りや伝統的なダンスなど、地域の文化的な側面も紹介していきたいという。

同じ地球上の景色とは思えない稀有な風景が広がるマカデイカディパン。貴重な自然環境を保護しながら、地元住民の生活向上を図る地道な取り組みが続いている。



F

F.バオバブの実。島からの持ち出しは禁止されている  
G.日干しレンガを作る女性。乾燥後は家の材料となる  
H.主食のモロコシをつく少年  
I.わずかな野菜と衣服、日用品が並ぶグエッタ村の市場

H

G



L



K

K.かつて行われた儀式で積み上げられた大量の石  
L.粉状にしたモロコシは、お湯で溶き、よく練って食べる



I



JICAが供与したパソコンに導入された新システムを使用する訓練試験センターのスタッフ

HIV/エイズ対策を行う上でのような問題があるがNGOに説明する県の職員



HIV/エイズ対策を行うNGOを対象に各地でワークショップを行う藤田直子JICA専門家(中央)

## JICAの活動 in ボツワナ

# 人材育成で国内産業に活気を

ダイヤモンド産業で経済の安定化を図るも、高失業率や所得格差、HIV/エイズのまん延など、いまだ多くの課題を抱えるボツワナ。JICAは「人づくり」を柱に、こうした課題の解決に協力している。

世界最大の産出量を誇るダイヤモンドなど豊富な鉱物資源を有し、急速な経済成長を遂げるボツワナ。積極的な政策により、教育や保健医療水準も安定している。しかし、経済は鉱業に大きく依存しているため、今後の成長にはリスクが予想されるとともに、17.6%という高失業率や所得格差の拡大という歪みも生じている。また、15～49歳のHIV感染率が25%と高いことも深刻な問題だ。

こうした課題の解決に向けて、JICAは国内産業の活性化やHIV/エイズ対策などにかかわる“人づくり”を支援。産業人材の育成では、コンピューター技術を指導するシニア海外ボランティアの武田峰男さんが活動中だ。各職業の国家資格試験などを運営するマディレロ

訓練試験センターで、新しい情報管理システムの開発・実用化を進め、その運用や保守が現地のエンジニアのみでできるよう指導している。「昨年末に、職業訓練試験管理システムが完成しました。それ以前は、試験結果のまとめや証明書の発行などを迅速に行うのが難しかった」と言う。現在は、センター全体にこのシステムを普及させ、業務の円滑化を推進。「共通のデータベースシステムで試験結果を管理できるようになり、みんなで協力して作業を改善しようという意欲が出てきた」と話す。

一方、HIV/エイズのさらなるまん延防止に向けて、より住民に近い“県レベル”での対策を開始した同国。その調整・推進役として、教育・保健医療・農業などの担当省庁やNGOなどで構成される

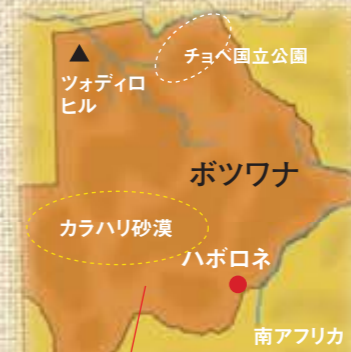
「HIV/エイズ対策委員会」を設置したが、計画・実施・モニタリングなどあらゆる面で能力が十分ではない。そこでJICAは、中央で委員会を指導する地方自治省にJICA専門家を派遣。委員会のメンバーや各県の担当職員のマネジメント能力向上、技術支援などを通して、対策の強化を図っている。



「新システムの完成でITスタッフのやる気も向上してきた」と言う武田さん



北西部の丘陵地帯「ツォディロヒル」は、国内唯一の世界遺産。動物や人間などの岩絵が400カ所、4,000点以上も残る。



主要産業は、世界の産出額を誇るダイヤモンドなどの鉱業。次ぐ農業は、トウモロコシといった雑穀の栽培や牛・羊の牧畜。



南西部から広がるカラハリ砂漠は、国土の約7割を占める。



南部アフリカで有名な動物の楽園ツォベ国立公園。特に、ゾウの生息数は世界最大。



首都：ハボロネ  
面積：58.2万km<sup>2</sup>(日本の約1.5倍)  
人口：188万人(2007年)  
公用語：英語、ツワナ語  
宗教：キリスト教、伝統宗教  
1人当たり国民総所得(GNI)：5,840ドル(2007年)  
経路：直行便はなく、南アフリカ共和国やヨーロッパ経由が一般的。  
通貨：ブラ(BWP) 1BWP=約12.9円(2010年6月現在)  
気候：雨期(夏:11～3月)と乾期(冬:4～10月)に分かれる。北部の雨期は非常に暑く雨も多いが、南西部・中央部は乾燥し、乾期に気温が5度を下回ることも。



屋外に設置したピッツァで「セスワ」を調理

文・写真=飛永佳代(青年海外協力隊)

- 〔セスワ〕  
〔材料(4人前)〕  
骨付き牛肉(骨なしでも可)800g/塩少々/水
- 〔作り方〕
1. 大きめの鍋に、適度な大きさに切った牛肉と肉が浸るくらいまで水を入れる。
  2. 鍋を火にかけて、肉が柔らかくなるまで(3～5時間ほど)煮込む。
  3. 煮汁が少し残る程度まで煮込み、肉が柔らかくなったたら骨を取り除く。
  4. すりこぎや木の棒で肉が繊維状になるまでたたく。
  5. 塩を少々ふりかけ、味をなじませたら完成。

この国では、男性が肉料理を担当するのが伝統。冠婚葬祭などの大きな行事があると、透き通るような青い空の下、大きな鍋で肉の煮込み具合をじっくりと見極める男たちの姿が見られる。

その中でもボツワナならではの一品が、長時間煮込んだ牛肉を木の棒でたたきコンビーフ風にした「セスワ」。塩以外の調味料を使わないので、肉本来の味をじっくり堪能できる。

冠婚葬祭に欠かせないメニューで、結婚式では結納金の代わりに解体した牛でセスワを作り、親戚や祝い客にふるまう。また、大勢の客を招く時には、屋外で大きな伝統鍋「ピッツァ」を使って調理するのも特徴だ。

## ボツワナ料理 牛肉の煮込み「セスワ」

